しらうめようちえん

# 園だより

2024年度 第1号

白梅学園大学附属
白梅幼稚園
2024年4月10日発行
小平市小川町1－830

## 子どもの「生き生き」を考える

園長 本 山 方 子

ご入園、ご進級、おめでとうございます。

園児のみなさんには、白梅幼稚園で「生き生き」と遊び、生活してほしいと願っています。

では、おとなたちが願う「生き生き」とした姿とはどういうものでしょうか。子どもたちが元気で自信に溢れ、笑顔でいれば「生き生き」していると言えるでしょうか。それは、おとなだけが安堵する姿かもしれません。

子どもは、遊びに専心しているとき、無の境地の表情をすることがあります。注意深く慎重に制作しているときは、眉を寄せてしかめっ面をしていることがあります。予想と違い思わぬことに直面すると、口は真一文字になり、大きくため息をついたりします。真剣なまなざしを見せるときは、子どもの物言いも厳しくなります。

一方で、自分のなかで「できた！」と満足すると、これまでのまなざしを一変させ、満面の笑みを浮かべます。大切な昆虫をそっとつまんで手のひらに載せるとき、笑みがこぼれます。友達と冒険してじゃれ合っているとき、屈託のない笑顔になります。

遊びにおいて、子どもはいっぱしの「仕事人」です。自分でやりたいことや挑戦したいことを見つけたとして、必ずしもうまくいくかどうかを算段したりはしません。けれども「やる」以上は、うまくいかせたい。その思いで、子どもなりにやり方を考え工夫し、調整していきます。その時の真剣な表情は、仕事に向かう職人そのものです。私たちが大事にしたいのは、遊びに打ち込み、何かを「成し遂げたい」と挑戦し、うまくいかないことも糧にして取り組み続ける子どもの姿です。折々に見せる、子どもの笑顔は仕事(遊び)に専心する喜びであり、誇りの証であると考えます。「生き生き」――それは「今－ここ」で生きていることの実感を表す言葉だと言えるでしょう。

（以下、園内のみ）